

第30回散策路の会活動報告

- 日時：2010年3月28日（日）13:30～16:00 天候：曇り
- 参加者：岩崎三郎、奥田せい子、瀬尾友紀、瀬尾祥子、高橋潔、長坂洋一、山田正夫＝計7名。
- 作業内容：石切り場への道、カエル池手前に竹の柵(6、V) 整備5回目

晴天の日が続くのに相変わらず御所川沿いのメインの道からカエル池に通じる道はぬかるんでいる。前回両側に土嚢を積んで堰を作ったので、左湿地からは溢れないが、道に溜まった雨水が右の土嚢の堰のため排水されずに道の中央に淀んで、ぬかるみは相変わらずであった。道に溢れた水が右側の湿地に流れ込むよう、前回積んだ土嚢を取り除き、青竹の柵に取替えた。これで里山風景にもマッチした。



★ カエル池への道、土嚢を除きに竹の柵に ★

まず、柵に使う竹の運搬である。御所川沿いに伐って置かれていた浄化池用の竹の廃材をリヤカーに積み、岩崎さん、山田さんが運ぶ。淀んだ水が右湿地に流れるよう、道になだらかな傾斜をつけ、排水を促した。取り除いた土嚢の跡に岩崎さんが杭を立て横に竹棒を渡し柵にする。杭打ちを手伝う瀬尾祥子さん。縦横に柵を固定し針金で括り付けていく器用な高橋さん。里山風景にマッチした青竹の柵が出来あがる。(写真📷)

★ メインの道に土嚢を並べ、湿地を保護する ★

道の片側に積んだ土嚢を除去し、それを一輪車に乗せて御所川のメイン道路に運び出す。前回土を覆い並べた土嚢は2週間で草が根をおろし、水を多量に含み以前より重くなっていた。その力仕事は瀬尾友紀さん、長坂さん、山田さんが担当。その



土嚢をメインの散策路に並べ、その上を土で覆い、泥パックしていく。この力仕事を山田さんが一手に引き受けて里山風景にマッチさせていった。約30個の土嚢により、湿地の水は堰きとめられるだろう(写真📷)

★ 泥んこ道に丸太の輪切りを飛び石状に ★

前回、木の輪切りを、飛び石状に敷き、それを足場に通れるようにした。その延長線上の浄化池への低い道にも続けて敷くことにした。約25個を並べる。枝谷戸にある材木で作った前回の材木の輪切りの残りを利用した。これを道の土の中に槌で打ち込み、平らにしていくのは瀬尾さん、長坂さん。(写真📷)



★次回作業内容★ 4月11日(日)9:00～

散策路の会総会。七里浄化センター入り口の整備計画
御所川沿いの道整備の続き(6回目)

